

アンケート結果について

2023年1月

株式会社日本経営

修正更新：2023年2月3日

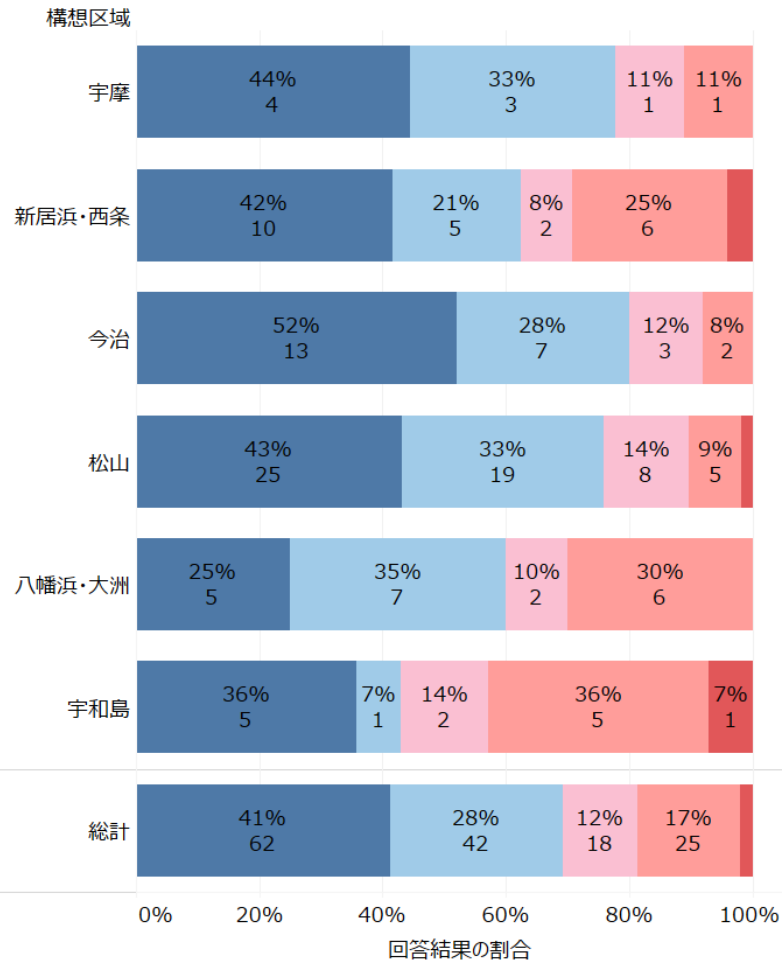
医療圏別の回答状況

<u>構想区域</u>	
宇摩	9
新居浜・西条	24
今治	25
松山	58
八幡浜・大洲	20
宇和島	14
総計	150

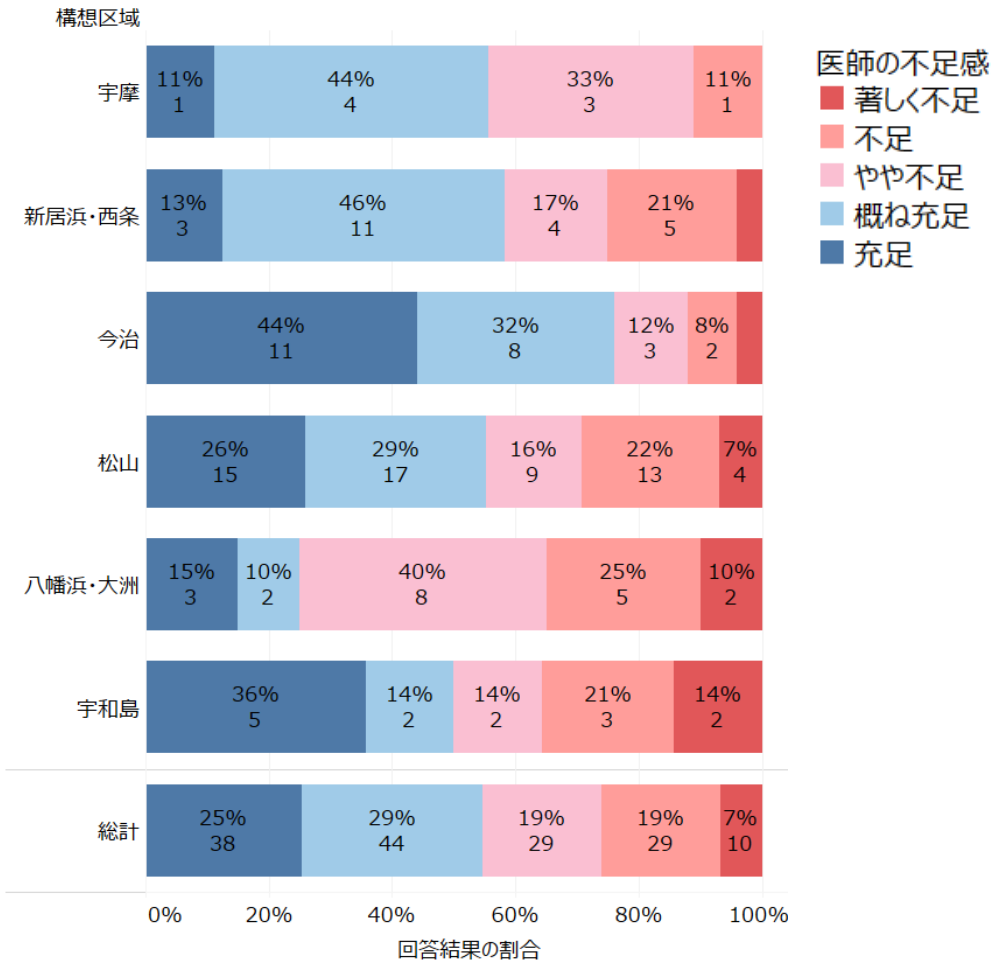
医師及び看護師の充足状況を入力してください。（Q7）

- 概ね充足以上と回答した病院の割合は、医師について69%、看護師について54%となった。
- 医療圏別では、宇和島圏域において医師不足を訴える病院が50%を超えている。
- なお、看護師は今治圏域を除くとおよそ半数の病院が不足を訴えており、八幡浜大洲圏域では7割以上と最も深刻である。

医師の不足感（率）



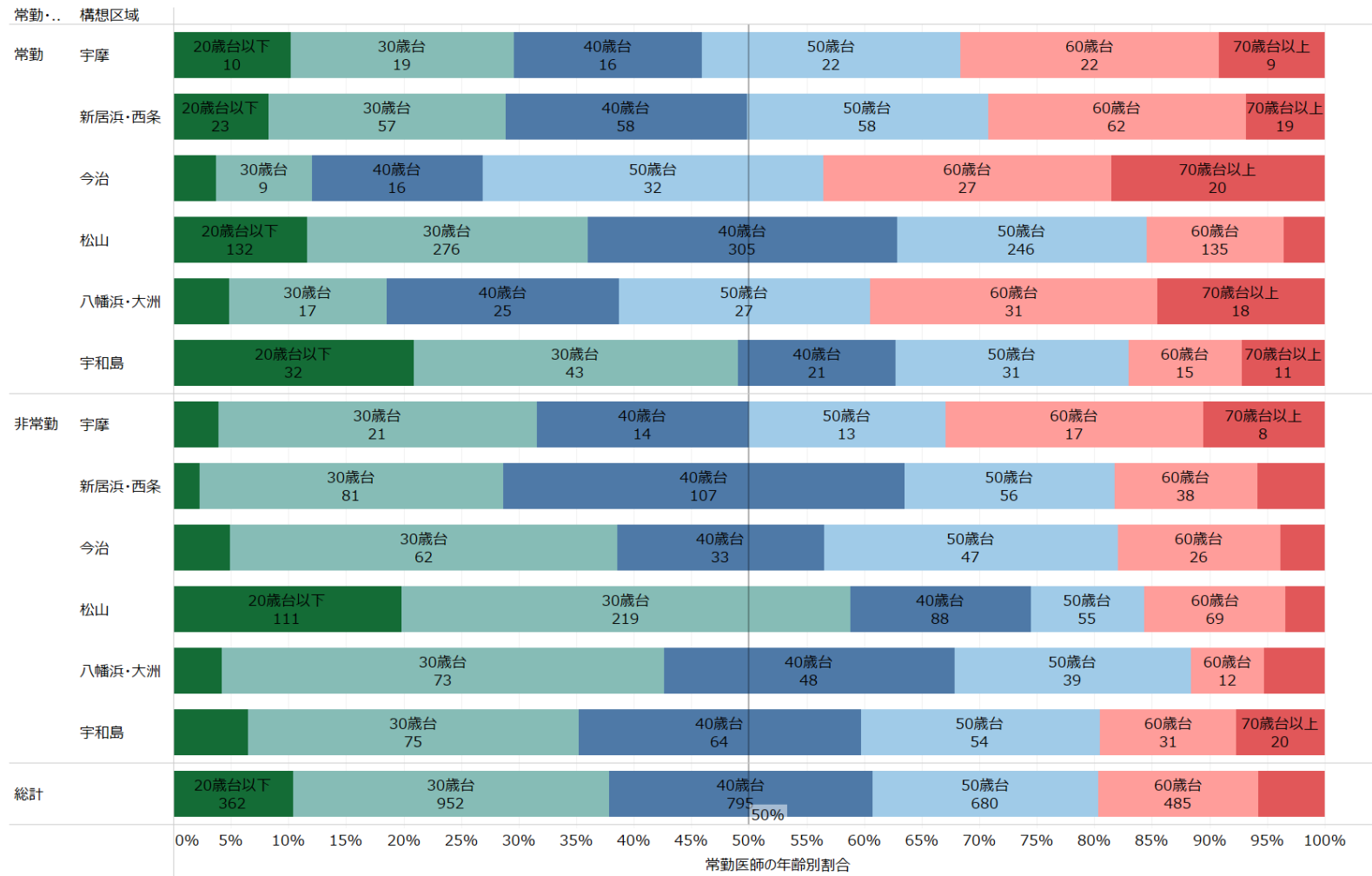
看護師の不足感（率）



常勤非常勤別・年代別の医師数

- 松山圏域と宇和島圏域を除くと常勤医師のうち50歳以上の医師がおよそ半数もしくはそれ以上となる。
- 特に今治圏域、八幡浜大洲圏域では60歳台以上の常勤医師が多く、10年後の診療体制について不安が大きい。

病院別年代別：常勤医師数（率）



常勤・非常勤
(すべて)

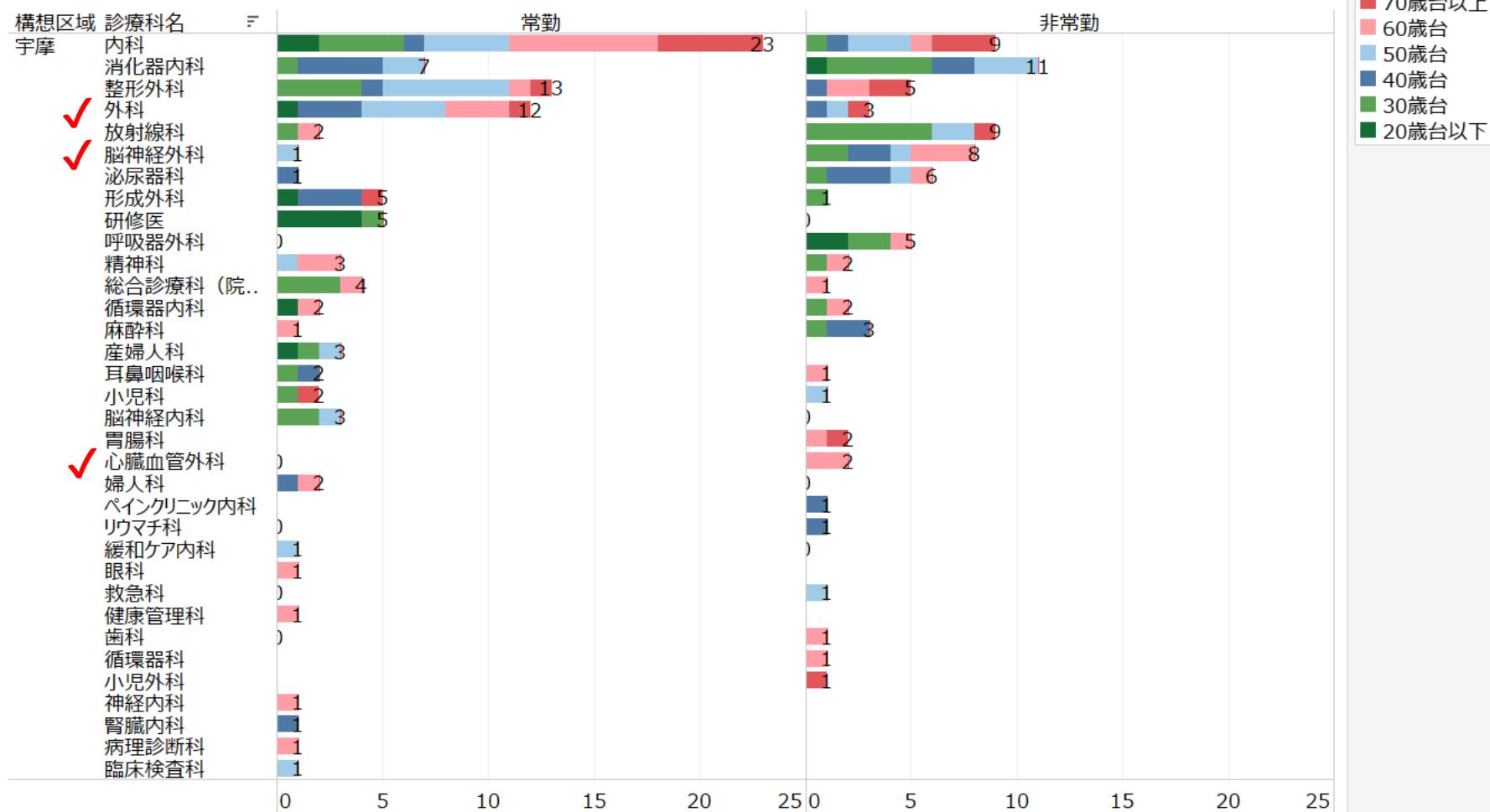
年代

- 70歳以上
- 60歳台
- 50歳台
- 40歳台
- 30歳台
- 20歳以下

診療科別・常勤非常勤別・年代別の医師数 宇摩圏域

- 診療科別の状況では、緊急患者が多い脳神経外科や循環器内科、心臓血管外科において、非常勤医師への依存が大きい。
- 外科においては、常勤医師数が圏域で12人だが、うち半数近くが60歳台以上となる。
- 急性期医療の体制確保については、安定した医師の確保が必要な地域であり、地域の役割分担も必須の議題となる。

圏域別科別年代別の医師数

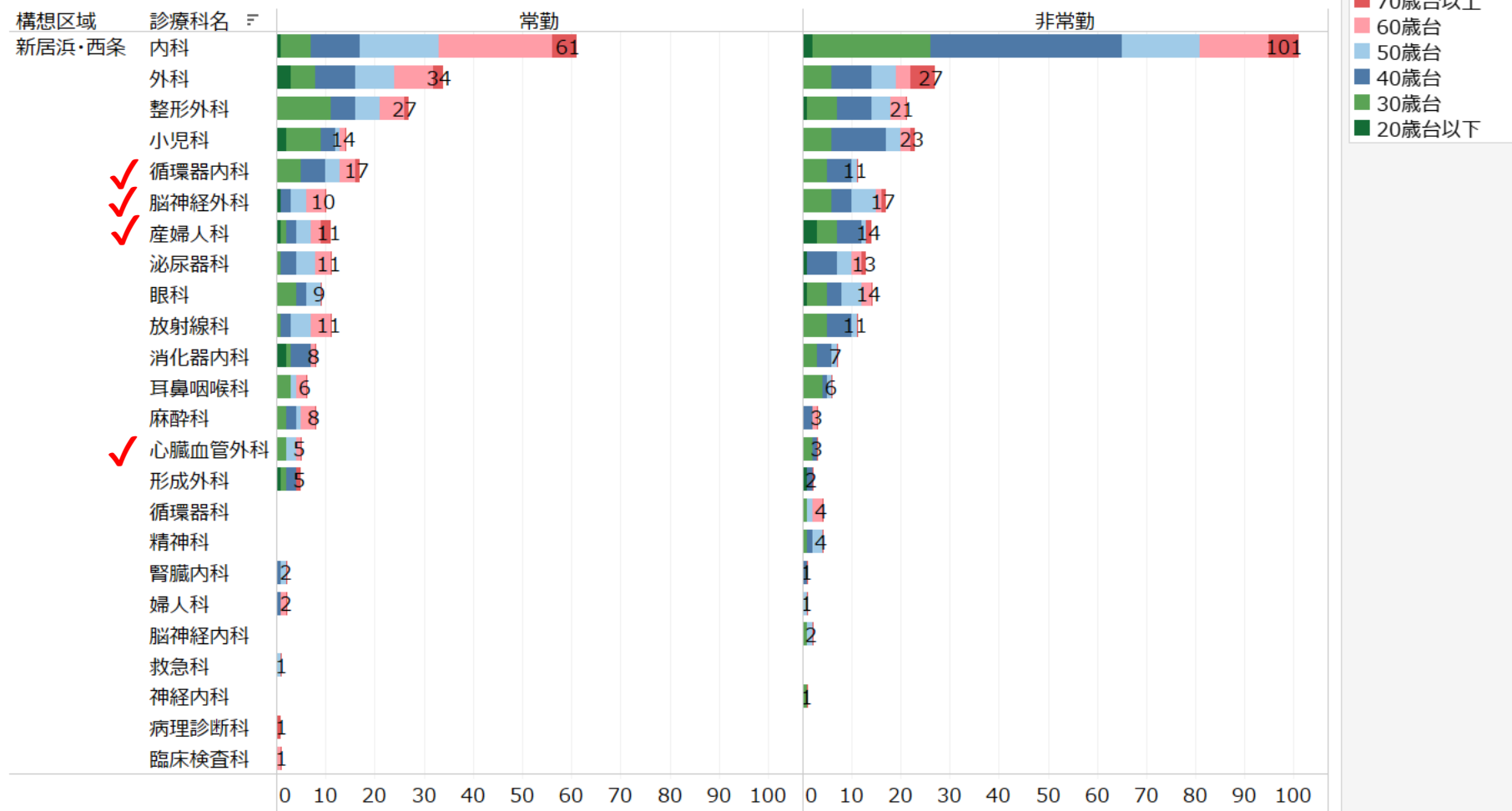


診療科別・常勤非常勤別・年代別の医師数

新居浜・西条圏域

- 医療圏全体で見た場合は、潤沢ではないが循環器内科・心臓血管外科、脳神経外科、産婦人科等、24時間365日体制を要する診療科の医師数は一定数存在する。但し、先の医師の充足感のアンケート結果のとおり、これら医師が分散することによる医師不足が生じている可能性がある。

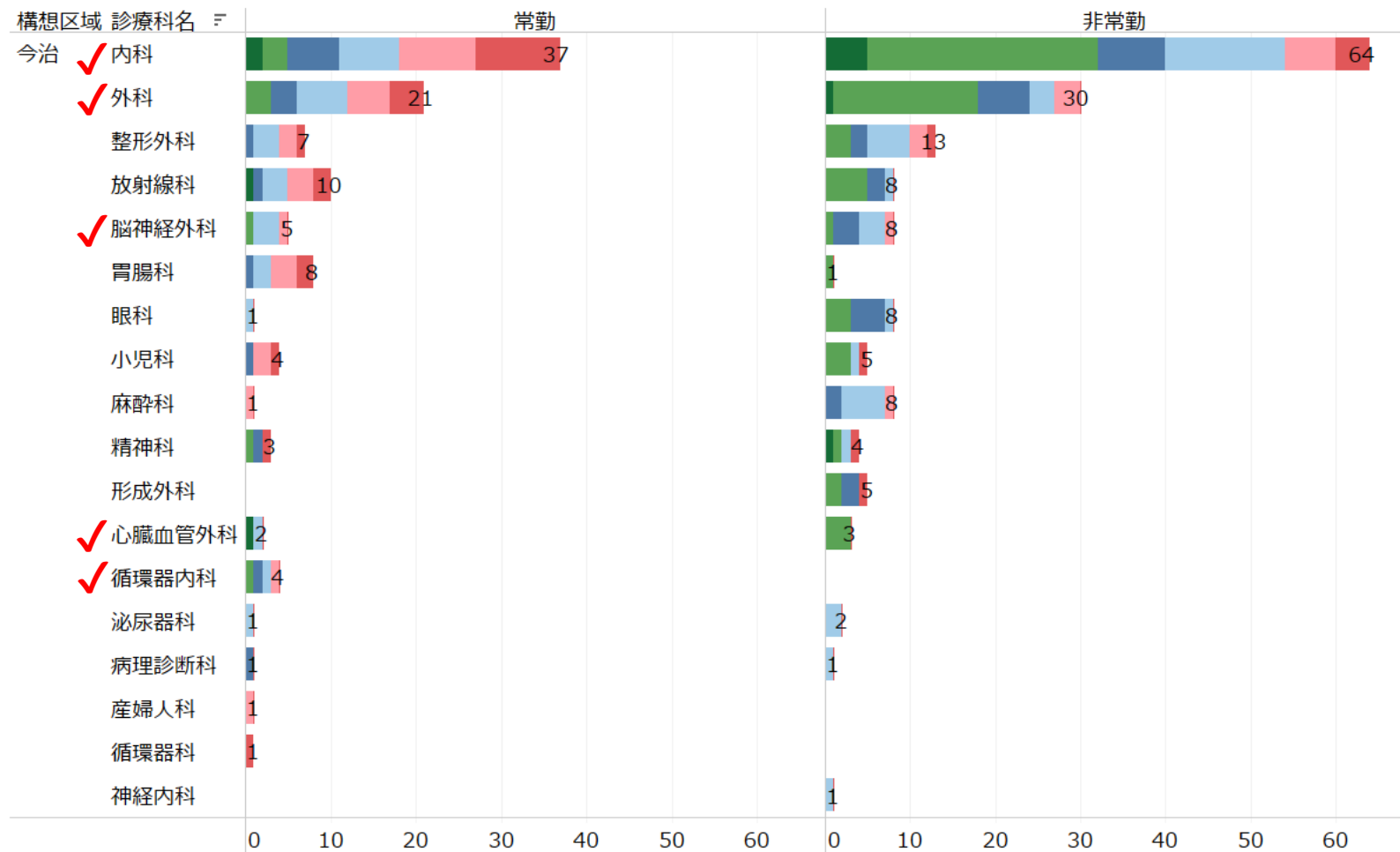
圏域別科別年代別の医師数



診療科別・常勤非常勤別・年代別の医師数 今治圏域

- 圏域全体でみて内科・外科は60歳以上の医師が多く、救急対応のマンパワーが不足していると思われる。
- 脳外、循環器においては常勤医師が少なく、かつ病院別に分散した場合は医師の不足感が高まるとと思われる。

圏域別科別年代別の医師数



構想区域
今治

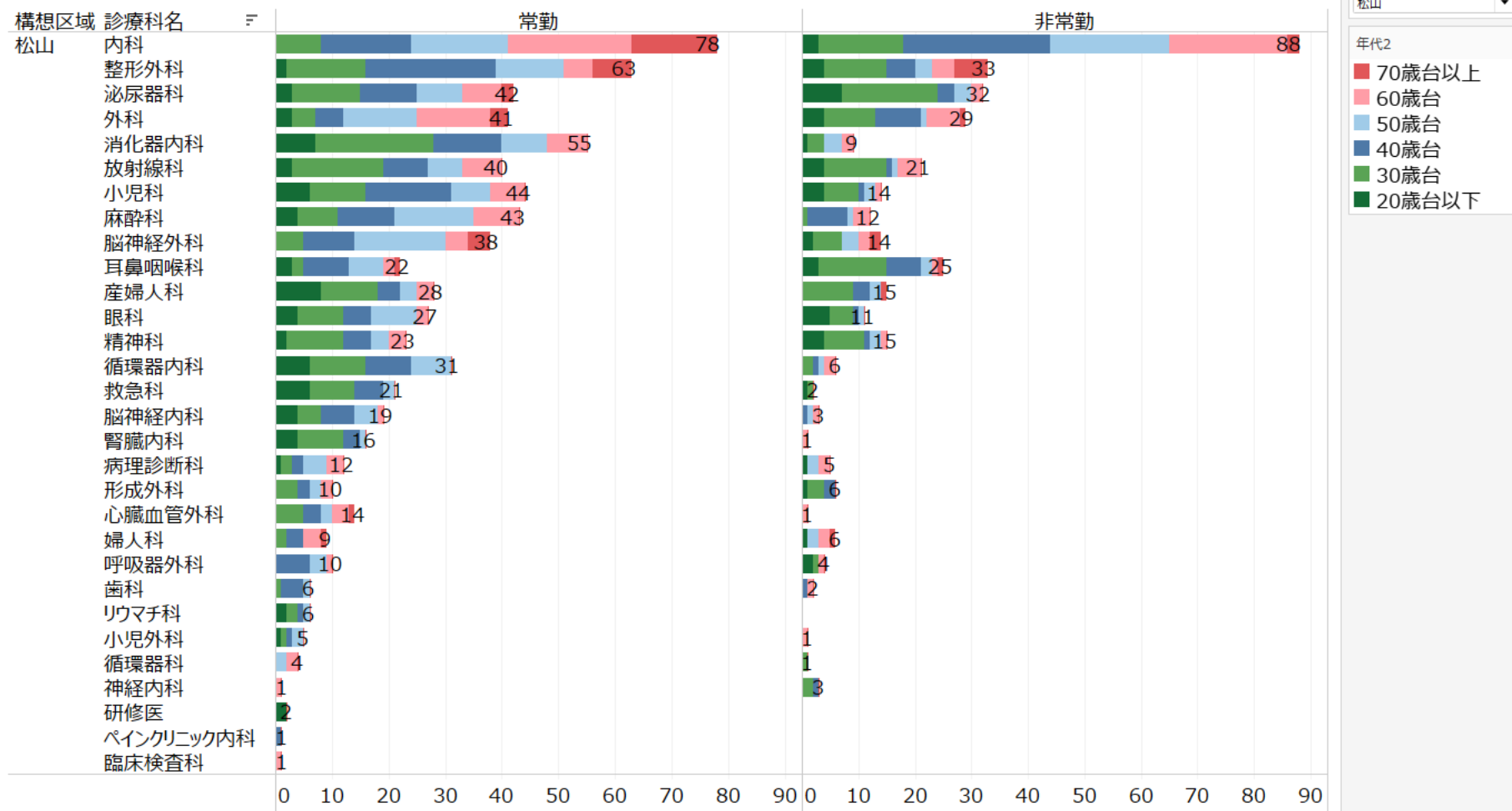
年代2

- 70歳以上
- 60歳台
- 50歳台
- 40歳台
- 30歳台
- 20歳台以下

診療科別・常勤非常勤別・年代別の医師数 松山圏域

- 大学病院等が所在する地域のため、各診療科において若い医師が一定数存在する。

圏域別科別年代別の医師数



構想区域
松山

年代2

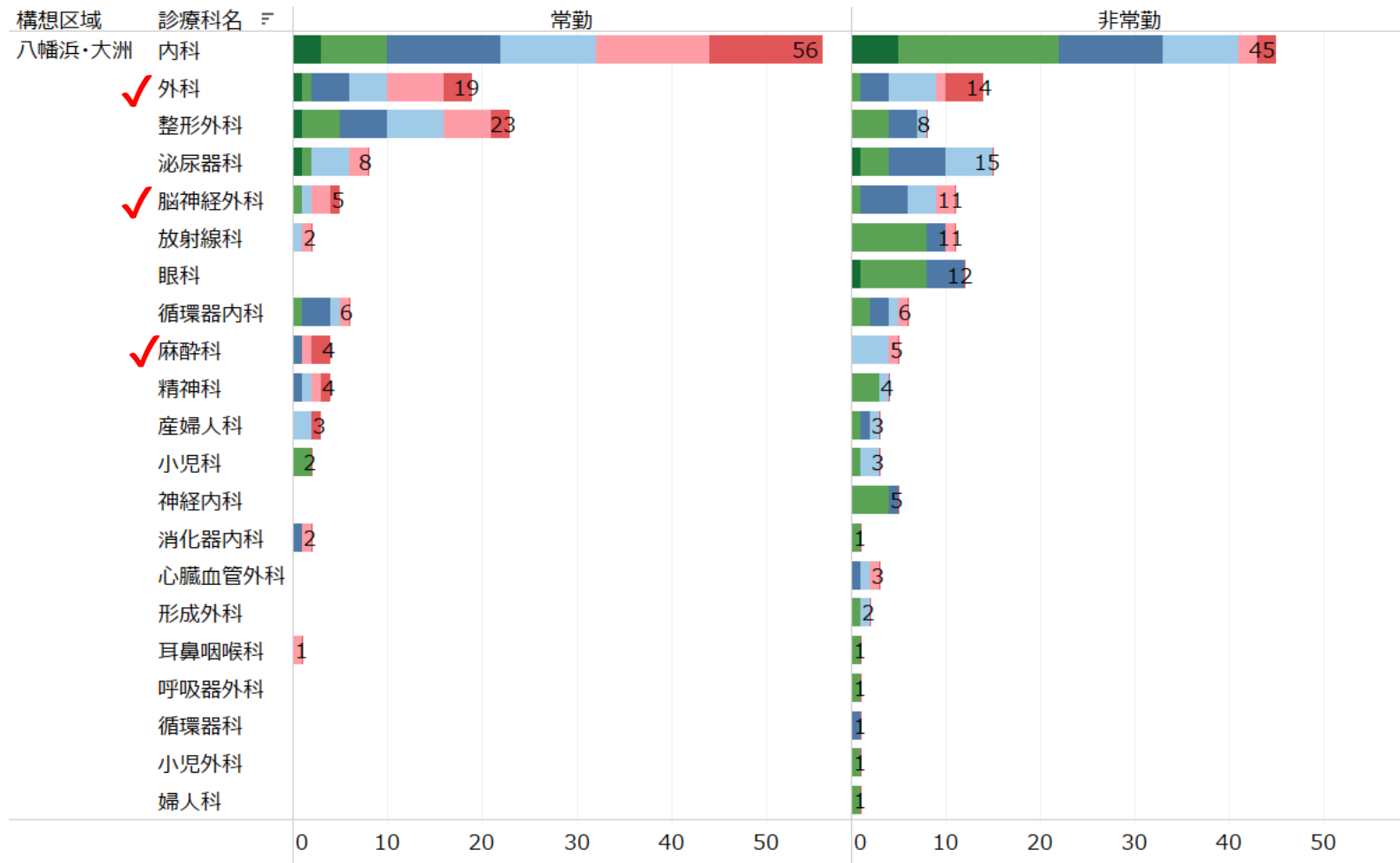
- 70歳台以上
- 60歳台
- 50歳台
- 40歳台
- 30歳台
- 20歳台以下

診療科別・常勤非常勤別・年代別の医師数

八幡浜・大洲圏域

- 外科は50歳台以下の医師数が10人であり、圏域として外科医が不足している。
- 他にも脳外、麻酔科等、圏域として常勤医師が少なく、かつ高齢化している診療科があるため、診療科により役割を集約する必要性が高まっている。

圏域別科別年代別の医師数



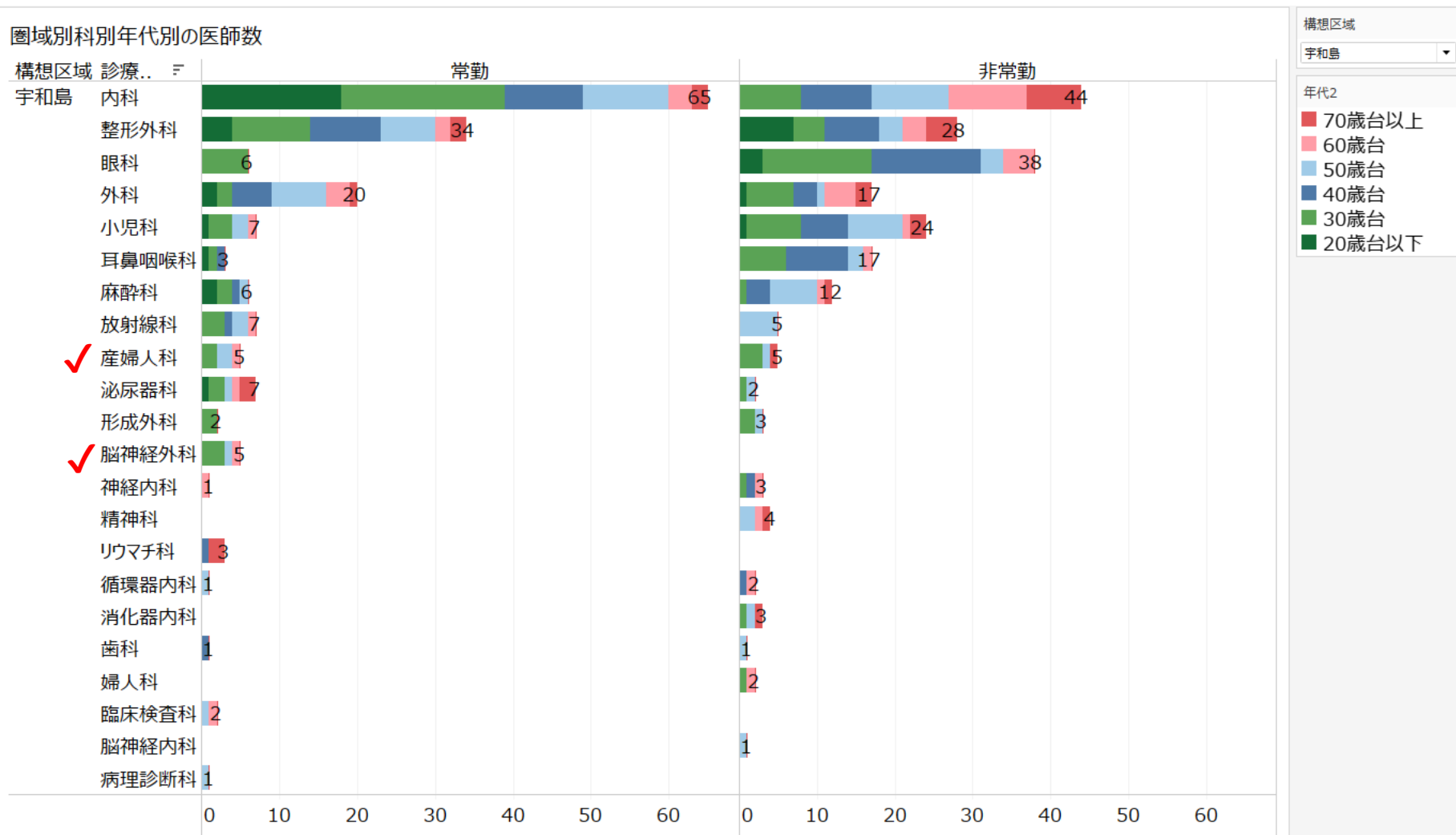
構想区域
八幡浜・大洲

年代2

- 70歳以上
- 60歳台
- 50歳台
- 40歳台
- 30歳台
- 20歳以下

診療科別・常勤非常勤別・年代別の医師数 宇和島圏域

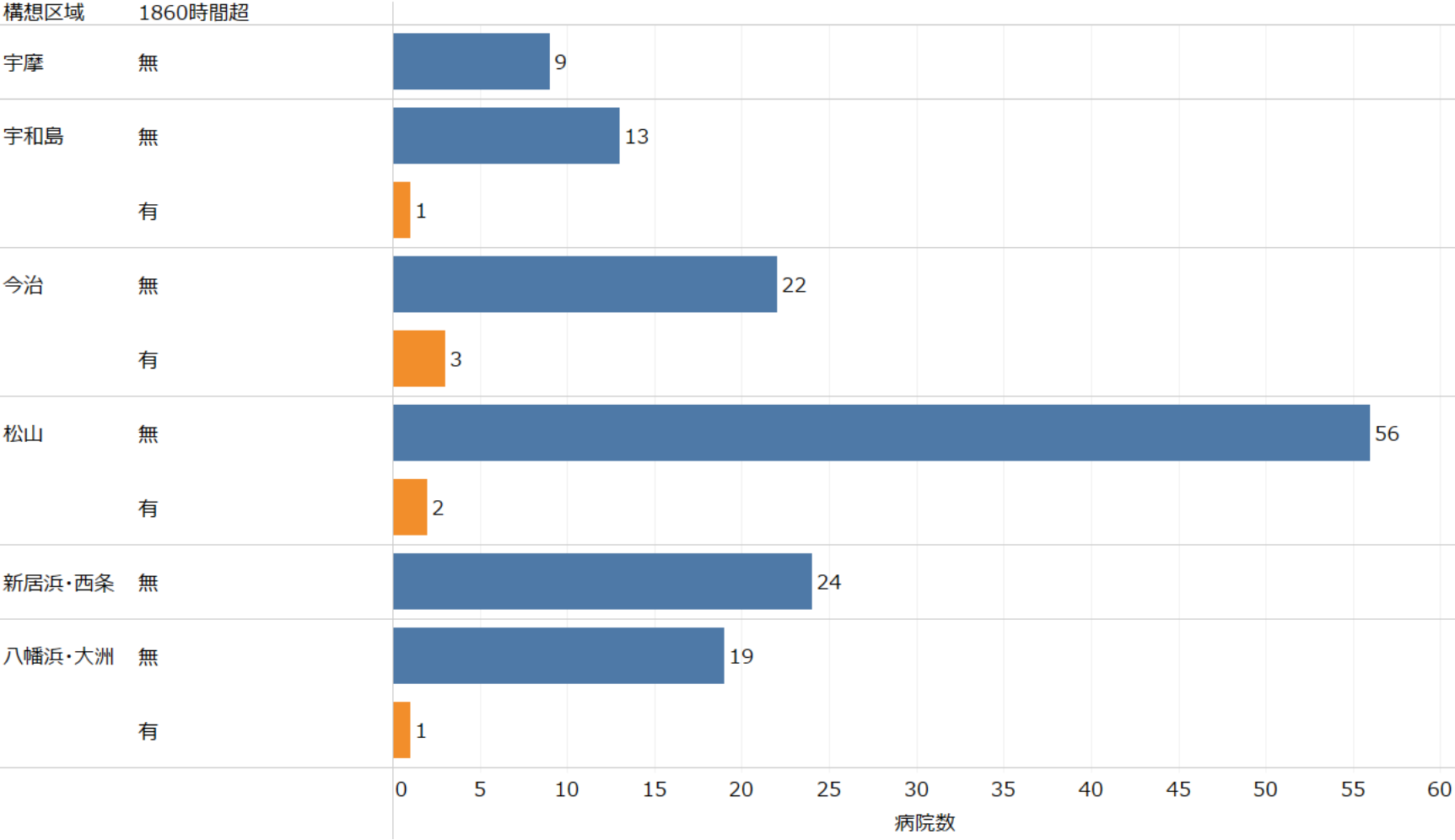
- 圏域内に3次救急病院があるため、圏域全体では若手医師が確保出来ているように見えるが、産婦人科や脳外科等は医師の絶対数が少なく、基幹病院への負担は非常に大きい可能性がある。
(循環器内科、消化器内科の人数が非常に少ないものの、回答時に内科として記載された可能性があるが詳細は不明)



医師の時間外労働の状況について

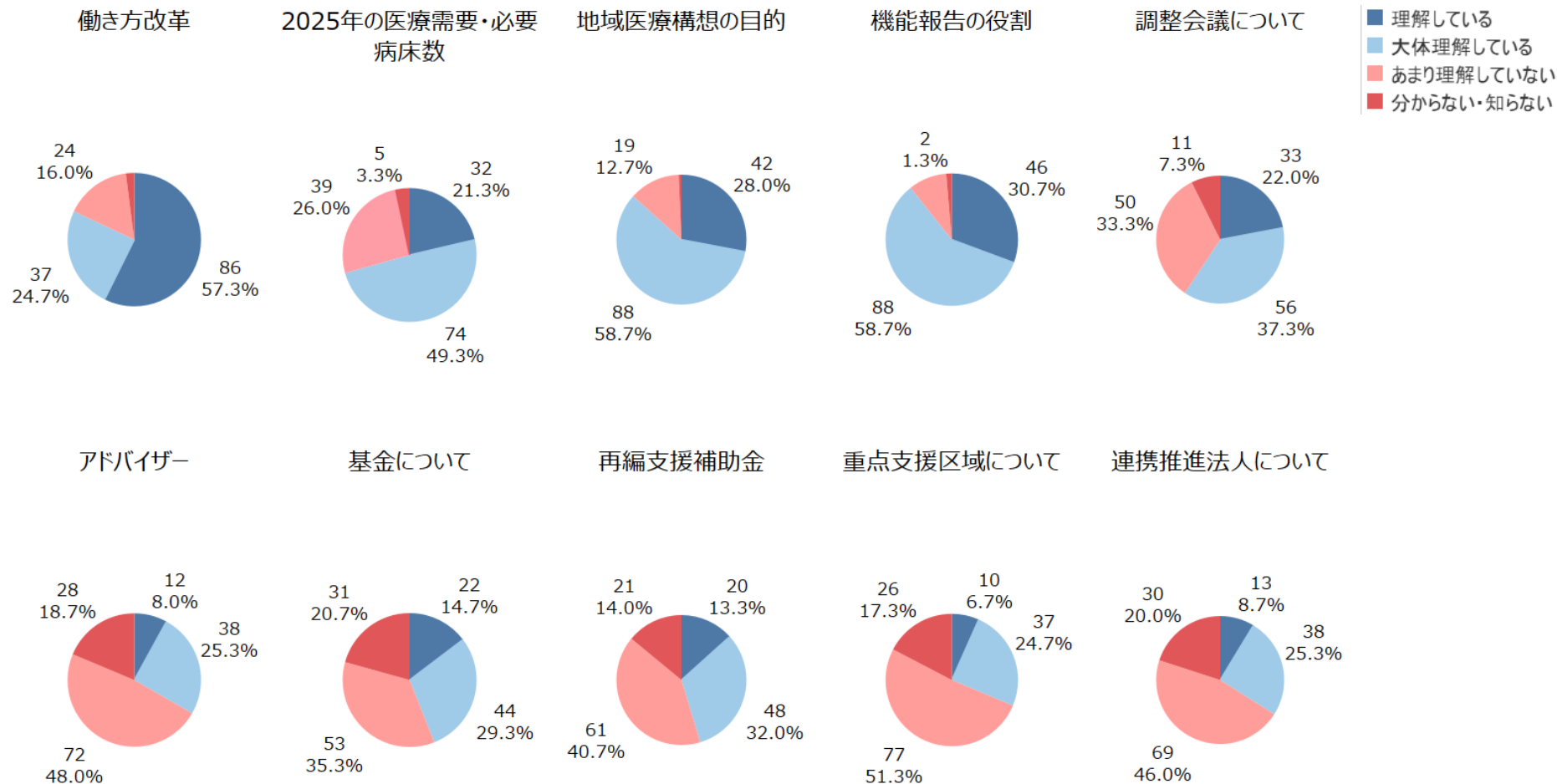
- ・ 愛媛県全体にて1860時間以上の勤務が確認される病院の数は7病院。
- ・ 中でも今治医療圏に3病院あり、医師不足のアンケート結果と合わせて早急な対応が必要な圏域となっている。

医師の時間外



各種制度への理解度

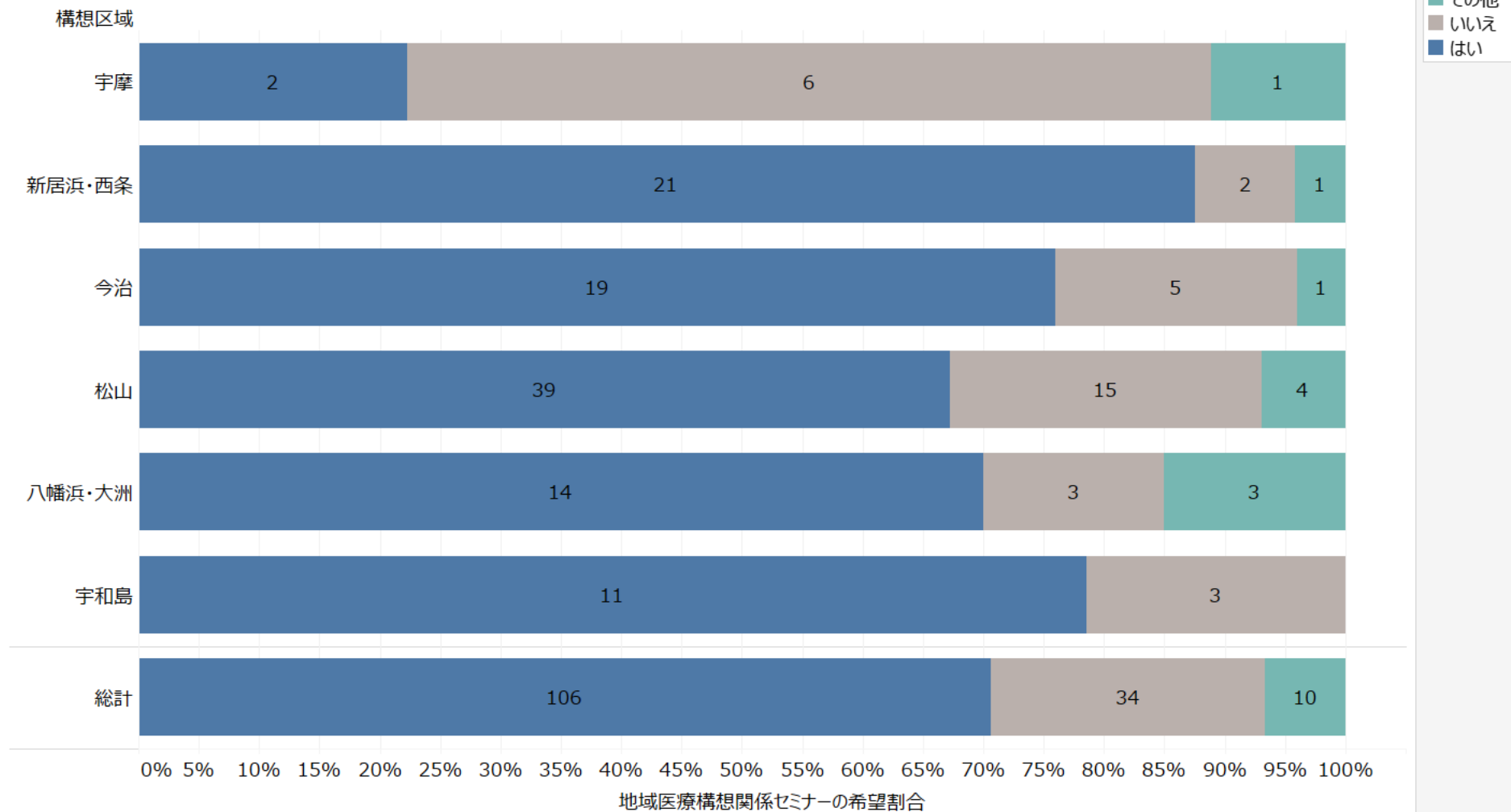
- 各制度への理解では、地域医療構想の目的や制度の概観についての理解度は高いが、調整会議の位置づけやアドバイザーの役割、再編支援に係る政策メニューについての理解度が低い状態であった。
- 今後、具体論に踏み込んだ議題の提供や支援が必要になるとと思われる。



地域医療構想に係るセミナー等の希望状況について

- 愛媛県全体では7割の病院が地域医療構想に関するセミナーの開催を希望。
- 前項の制度理解度や地域の状況にあわせた定期的な研修開催が望ましいと思われる。

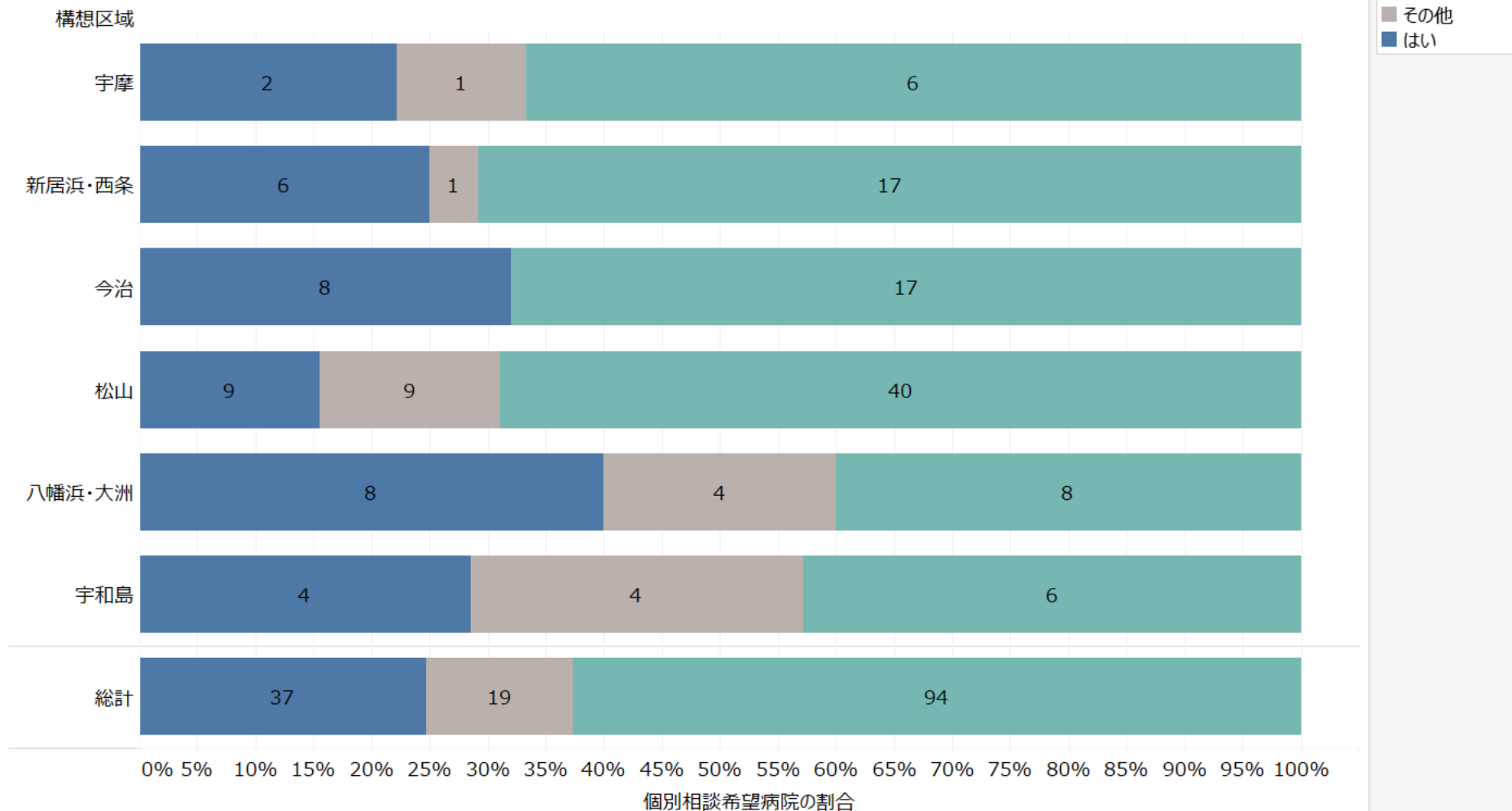
地域医療構想（地域医療の現状や将来見通し等）に係るセミナーや研修等があれば、参加したいと思いますか。



個別課題に対する県や専門家の個別相談会の開催希望について

- 個別の課題があり、相談を希望する医療機関が25%（37病院）あり、それぞれ非常に個性が強くと、かつ、地域の実情に根差した課題であるため、県や専門家派遣による相談の実施を早期に開催する必要性が伺えた。

個別相談希望



現在と将来の課題について（自由記載）

※非常に多くのご意見を記載頂きました。当資料では、一部を意識により掲載します。

- 先の調整会議資料では、オープンデータによりDPCデータを提出する病院の実績のみが分析されていたが、それら以外の病院や診療所、外来についても精緻な分析を行い、地域の実態をより正確に可視化と共有すべき。あわせて一般市民にも理解される形で公表してほしい。
- このままでは急性期医療や救急輪番制度を維持することが困難。医師や看護師の集約は必要だと考える。病院の統廃合の議論を踏み込んで行わなくては、医療圏そのものが崩壊するのではと危惧している。
- 医師及び看護師不足への不安が大きく、マンパワー不足という条件下では病院の方向性を考えるにも制約がある。地域の役割分担や連携をセットで考えなければ、人手不足も病院の方向性を思案することも進められない。これらの課題については、市や県が積極的に主導をしてほしい。
- 病院の役割を医療圏毎で評価することに無理がある。県全体を統括する組織作りと、県全体の医療の供給に資する病院の評価を公正に行うべきである。
- 在宅医療を行う医療機関や介護施設との連携についてもより力を入れて推進すべき。あわせて、ICTの導入により地域の医療機関や介護施設同士が円滑にコミュニケーションが行える体制を整備し、連携が捗るようにして頂きたい。
- 現医師の高齢化による事業承継に関する課題がある（意見多数）